

有限会社 中山農場

■ 経営センスを活かして、地域の先駆的大規模農家に発展



〈法人の概要〉

所在地: 〒086-0654 別海町中春別 307-2

代表者: 代表取締役 中山勝志

構成員: 2名(構成農家1戸)

役員: 2名 常時雇用者: 7名

設立: 平成8年9月 資本金: 300万円

事業内容: 酪農

牧草 230ha、乳用経産牛 365頭、乳用育成牛 315頭、年間生乳生産量 3,500t(H22年)

経営面積: 230ha

売上高: 3億3,100万円(H21年)

電話: 0153-76-1777 FAX: 0153-76-2973

URL: <http://www.nakayama-farm.com>

E-mail: nakayama@arens.or.jp

〈法人のあゆみ〉

平成3年	フリーストール牛舎建設、ミルクパーラー設置など
5年	乾乳牛舎建設
6年	年間生乳生産量 1,000t 超える
8年	有限会社中山農場を設立(1戸1法人)
9年以降	フリーストール牛舎増設、育成舎建設、バンカーサイロ設置など
22年	農業主導型6次産業化整備事業に採択され農産加工施設(チーズ加工)を整備 インターンシップ受入開始
23年	チーズ加工開始

〈設立の経緯・設立後の状況〉

- ・中山勝志氏は、昭和60年ごろに親から経営継承をして以来、先代の経営スタイル(配合飼料の独自ミキシング等)を継承しつつ、個別経営の酪農を営んできた。
- ・平成8年、経営主の家族が健康上の理由から牧場作業が困難になり、当時、雇用していた3名の従業員を安定的に確保する上でも、雇用保険や社会保険を手厚くするなど、従業員の待遇改善を図る必要があった。
- ・労働保険や厚生年金の加入のため、地元商工会に問い合わせたが「法人でなければ事務の代行を受けられない」との回答があったため、法人化に踏み切った。
- ・法人化にあたっては、労働保険や厚生年金の加入手続きについては商工会、財務管理や法人化シミュレーションについては税理士にアドバイスを受けた。また、労務規則等の作成については、根室農業改良普及センターに支援を受けた。
- ・平成8年9月に家族経営から法人経営に切り替えて、有限会社中山農場を設立した。「充実した従業員の福利厚生」を目指し経営をスタート。設立当時は、搾乳牛が250頭、年間生乳生産量2,500t規模であったが、その後、フリーストール牛舎の増改築や育成舎の建設、バンカーサイロの設置などの設備投資などを行い、経営を展開した。現在、経産牛365頭、年間生乳生産量3,500tにまでに規模を拡大した。
- ・平成22年度の農業主導型6次産業化整備事業に採択され、農産加工施設を整備し、翌23年度から、チーズ加工に取り組むなど、経営の多角化を進めている。

〈法人経営で生じた課題と対応策〉

- ・個別酪農家は生産者であって法人経営者ではないため、人材の確保・育成とその情報収集に苦労した。
- ① 従業員を確保するために、取引のあった建設業者から期間雇用者として社員を雇用した。また、新卒者を採用し、若者の雇用を積極的に行っている。
- ② 人材育成を行う研修等に関する情報が全くなかったため、「ねむろ法人ネットワーク」を立ち上げて、経営の問題点や人材育成等について話し合う情報交換の場を作った。

〈法人経営のメリット・デメリット〉

- ・生産性の向上が期待できる。
- ・組織作りができ、チームワークが発揮できる。
- ・人材を集めて、新たな事業展開ができる。
- ・新規投資がしやすくなる。
- ・交代で休日が取得できるなど、ゆとりある生活が実現できる。

【留意点】

- ・家族と従業員との間で摩擦が発生しやすい
- ・労務管理、経営管理や従業員の作業体系が困難

〈法人が継続するためのポイント〉

- ・キャッシュフローやバランスシート、損益計算書を必ず作成し、毎月の決算を実施する。
- ・人材の育成を考えていく必要がある。
- ・生産費などのコスト意識をしっかりと持つ。

〈これから法人化を目指す農業者へのメッセージ〉

- ・法人は、地域振興の鍵となる存在なので、自分たちの目的をしっかりとって頑張ってもらいたい。

※代表の中山氏の基本理念は、「酪農業の振興は地域の振興」という観点から、酪農業の横のつながりの強化と、従業員の待遇改善による酪農業の裾野を広げていくことで、自己の経営発展を地域振興につなげていこうと考えている。

〈特徴的な活動や取り組み〉

- ・自立した経営を行っていくために、①キャッシュフローやバランスシートなどを整備して、生産コストの把握に努めているとともに、②コントラクターに頼らず、自力での草地更新・牧草収穫作業を行い、その中で高品質な牧草生産を実現している。
- ・多彩な人材確保に取組み営業力強化を図っている。
- ・農産加工施設を整備し 23 年度からチーズ加工に取り組んでいる。
- ・東南アジアの研修生を積極的に受け入れている。

〈根室管内の法人化〉

- ・中山農業が法人設立した平成 8 年当時、根室管内の法人数が、わずか 17 法人であったが、現在では、123 法人と大きく増加している。

〈経営目標と将来の展望〉

- ・生乳生産だけでなく、乳製品の加工製造、販売を手がけていきたい。別海は生乳の一大生産地でありながら、乳製品を加工し販売している酪農家がほとんどいない空白地域である。メガファームがチーズ作りに参入する新たな試みにより、地元の雇用機会を創出し、人材を育てる環境を作り、チーズの普及に努め、地域の中核的な企業として歩んでいきたい。

〈代表としての活動〉

- ・ねむろ法人ネットワーク代表として、酪農業の横の連携強化活動に積極的にかかわっている。
- ・アジア諸国の酪農発展に貢献する目的で、別海の酪農家が集まり、研修受入機関の北海道近代酪農協同組合を設立し、東南アジアからの研修生を受け入れている活動にかかわっている。

〈視察の受入〉

詳細については要相談。

連絡先： 0153-76-1777（担当：代表取締役 中山勝志）